

第6学年国語科学習指導案

1 単元名 言葉を選んで、短歌をつくろう

たのしみは

2 単元の目標

- 構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えることができる。
(思考力、判断力、表現力等B (1) オ)
- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
(知識及び技能 (1) オ)
- 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方についての知識を得ている。
(知識及び技能 (3) イ)
- 短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。
(思考力、判断力、表現力等B (1) カ)
- 思いや情景が伝わるよう、書き表し方に着目し、粘り強く短歌を作ることができる。
(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。[(1) オ] ・ 古典について解説した文章を読んだり、同年代の子どもが作った短歌、現代の短歌などの内容の大体を知ったりすることを通して、ものの見方や感じ方について知識を得ている。[(3) イ]	・ 「書くこと」において、構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えている。 [B (1) オ] ・ 「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。[B (1) ウ]	・ 書き表し方に着目して表現を整えることに粘り強く取り組み、短歌を作ろうとしている。

短歌づくりの総合的な評価基準（実際の判断基準）

A	情景や思いが相手によりよく伝わるよう、言葉を並び替えたり、ぴったりの言葉を選んだりして、短歌を工夫して作っている。
B	情景や思いが相手によりよく伝わるよう、ぴったりの言葉を選んで、短歌を工夫をして作っている。
C	Bの条件を満たしていない。

4 単元について

児童は5年生の「日常を十七音で」の学習で、表現を工夫して俳句を書く学習をしている。また、4月教材の「春のいぶき」では、俳句や短歌のきまりを復習し、春の季語を使って俳句や短歌を作る学習をした。その際、教科書に掲載されている俳句や短歌から先人が感じてきた季節感にも目を向けた。また、春を表す言葉集めを行い、季節を表す言葉の多さにも気づくことができた。先人の俳句や短歌を真似たり、言葉集めをした語句を用いたりして、短歌や俳句を選択して作る活動をした。さらにそれを掲示することで、友達の短歌や俳句から、「春」の様々な表し方があることを知り、楽しみながら学習をすることができた。

本単元「たのしみは」では、古人のものの見方や感じ方に触れ、「たのしみ」をテーマに短歌を作る学習である。自分や友達在日常の中で感じている、ささやかではあるが、幸福な気持ちを取り上げる。大なり小なり悩みや問題を抱えるようになる高学年では、この「日常生活の中で、ささやかではあるが幸福なこと」を取り上げることは非常に意義深いと考える。また、その気持ちを表した短歌を友達と交流することで、互いに対する肯定的な気持ちの交流がなされることを期待している。しかし、「ささやかではあるが幸福なこと」を見つけるには、ある程度の期間がないと難しいといえる。

そこで、本単元に入る1か月前からギガタブで、日常の中で幸福を感じた場面をカメラで撮影して残したり、出来事やそのときの感情を残したりできるようなワークシートを活用する。また、「楽しい」「うれしい」「幸せ」を表すような語彙を集めた掲示物を作成する。幸福を感じた場面を溜めたり、活用できそうな言葉を掲示することで、自分の思いを短歌に表したいという気持ちを高めたり、その気持ちを表すために必要な語彙を集めたりする時間を十分に確保することができると考えた。

さらに、現代の短歌や同じ年齢の子どもが書いた短歌を子どもたちに紹介したり、掲示したりする。そうすることで、「昔の人が作ったもの」ではなく、「現代でも楽しまれていて、どの年代でも詠めるもの」というように、短歌を身近に感じたり、様々な表現があることに触れたりできるようにしたい。

このように、日常生活の中で感じたことを短歌に書くという言語活動を通して、「B書くこと」の「題材の設定」「構成の検討」「考えの形成・記述」「遂行」「共有」の資質・能力の育成をめざしたい。

5 児童の実態と基盤となる言語活動や継続的な取組（一部省略）

（実態を受けて）表現するための語彙力を高める必要があると考える。そこで、様々な場面で友達の発言や本などから見つけた「楽しい」「うれしい」「幸せ」などの感情にぴったりの言葉を集めた掲示物を作成する。また、現代の短歌や同年代の子どもが書いた短歌を掲示し、様々な表現に触れられる掲示物を作成することで、いつでも児童がよりよく感情が伝わる言葉を見つけられるようにし、語彙力を養っていききたい。

また「楽しいこと」「幸せに感じたこと」を書き留めるワークシートを作成し、それらを感じた場面と感情を残していくことを継続していく。しかし、書くことが苦手であったり、抵抗があったりする児童も多い。そのためギガタブでその場面の写真を撮影することも可とする。また、ワークシートには、毎日記録できるような欄を設けておくと、1週間のうちに2つ程度は記録していこうという約束にすることで、「書くこと」への抵抗感を減らし、自分の思いや考えを自由に残していけるようにする。そして、その記録してきたことから、短歌にしたい場面を選べるようにすることで、短歌を書くことに苦手意識がある児童への手立てとしたい。

6 指導計画（全3時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価（評価方法）
一	1	○「たのしみ」をテーマに短歌を作り、歌会を開くという見通しをもつ。 ○ワークシートにまとめたことやギガタブで撮影してきたことからいくつか短歌を作る。	・教師が自分の例をいくつか示し、「たのしみ」を感じる場面を選択しやすくする。 ・短歌のリズムや決まりを確認する中で、字余りや字足らずも可と伝えることで、柔軟に発想できるようにする。 ・なかなか思い浮かばない児童は、きまりにとらわれず、ひとまず表したいことを羅列させ、それを短歌のリズムに変えられるようにする。 ・現代の短歌やP 6 1の短歌、同年代の子どもが作った短歌を参考にすることで、短歌をつくるときの手立ての一つとする。 ◇生活の中の様々な場面から自分の「たのしみ」を探し、短歌にすることができる。 （発言・振り返りシート）
二本時	2	○歌会に出す短歌を選び、その短歌が友達に「よりよく伝わる」ように表現を工夫する。	・集めてきた語彙の掲示物や現代の短歌、「言葉の宝箱」などを活用するよう促す。 ・現代の言葉や流行の言葉を使うときは、それが誰にでも伝わる言葉なのかを考えさせる。 ・教師の短歌の順番を変えたり、表現を変えたりする活動を取り入れることで、自分の短歌を工夫するための手立てとする。 ・なかなか工夫できない児童には、机間指導で声を掛け、言葉の選択肢を提示することで、工夫をする手立てとする。 ◇表現の工夫を考えながら言葉を選んで短歌を作ることができる。 （観察・記述）
三	3	○グループとクラス全体で歌会をする。 ・グループで歌会 ・グループで選んだ短歌で歌会	・「表現のよかったところ」や「内容のよかったところ」など、伝え合う内容を明確にすることで、発言しやすくする。 ・グループ以外の友達の短歌とその短歌の

			感想を書いて掲示できる場所を設け、友達 の短歌のよさに気付けるようにする。 ◇友達の短歌のよかったところに気づき、 友達に伝えることができる。 (発言・感想カード)
--	--	--	--

7 本時の指導（2／3）

（1）目標

- 自分の作った短歌の情景が、相手によりよく伝わるよう、表現の工夫をして短歌を作ることができる。

（2）展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◇評価
5	1 前時までの学習を振り返る。 ・短歌に表したい場面を選んで短歌にした。	○前時に出てきた「たのしみ」を想起し、共有することで、本時への意欲につなげる。 ○担任の短歌も掲示することで、短歌を身近に感じることができるようにする。
3	2 本時のめあてをつかむ。 「たのしみ」がよりよく伝わるように言葉を並べ替えたり、ぴったりの表現に変えたりして短歌を作ろう。	
5	3 歌会に出す短歌を選ぶ。 ・自分の気に入っている場面 ・うまく書けた短歌 ・もっとよくしてみたい短歌 等	○短歌を選ぶ視点を伝えることで、1つに絞りやすくする。 ○短歌の選出に悩んでいる子には、机間指導で、短歌への思いや情景等を聞き取り、助言をして選べるように支援する。
2 7	4 自分の短歌を推敲する。 ・担任の短歌と一緒に直す。 ・表現をほかの言葉に置き換えてみる。 ・言葉を並べ替えてみる。	○担任の短歌と一緒に推敲することで、活動に取り組むやすくする。 ○表現に悩んでいる子には、机間指導で会話をしたり、選択できるような言葉を伝えたりする。 ○「たのしみは」や「時」の型があると書きにくい子には、それらを使わなくてもよいことを伝える。 ○掲示物や「言葉の宝箱」、既存の短歌を参考に

		してもよいことを伝える。しかし、既存の短歌と同じにならないよう伝える。 ○順番を悩んでいる児童には、並べ替えたものを一緒に確認し、声掛けをしながらよりよい短歌を選択できるようにする。 ○ノートに直した短歌を消さないよう指示を出し、同じ題材で作った短歌を比べられるようにすることで、表現の変化に気付かせたり、よりよい短歌を選ぶことができるようにしたりする。 ◇情景や思いやよりよく伝わるよう、表現の工夫を考えながら短歌を作っている。 (発言・記述)
5	5 最初に作った短歌と比べ、表現の違いについて感想を書く。 ・本時を振り返り、ノートに感想を書く。	○担任が作った短歌も、推敲する前と推敲したあとのものを掲示し、違いを示す。そうすることで、自分の短歌の変化に気付きやすくし、感想を書く手立てとする

(3) 本時の板書とワークシート

時		たのしみは	表現を変えた例を貼る 教師が作った例を貼る	(短歌のきまり) ・「五・七・五・七・七」の<u>三十一音</u> ・字余り 字足らずでも問題ない	④ 「たのしみ」がよりよく伝わるように、言葉を並べ替えたり、ぴったりの表現に変えたりして、短歌を作ろう。
---	--	-------	---	--	---